



「業務の未来」レポート

混乱の時代を 乗り切るために



目次

03 エグゼクティブサマリー： 業務部門の将来像

重要なポイント

05 パートI：業務の変革を進める5つの混乱

ユビキタスオートメーション

持続可能性と気候変動への緊急の取り組み

組織全体における真の多様性の実現

変わり続ける規制

サイバーセキュリティおよび不正行為に関わる懸念の広がり

11 パートII：混乱時の業務モデルの登場

ジャストインタイム方式の業務から適応戦略へ

レジリエンスの重要性

将来のCXはハイブリッド型

15 パートIII：業務スペシャリストの時代

無駄な作業の削減

18 パートIV：業務を進化させる洞察力のあるリーダー

必要なスキルを身につける

リソースを確保する

最適なテクノロジーを選択して未来をつかむ

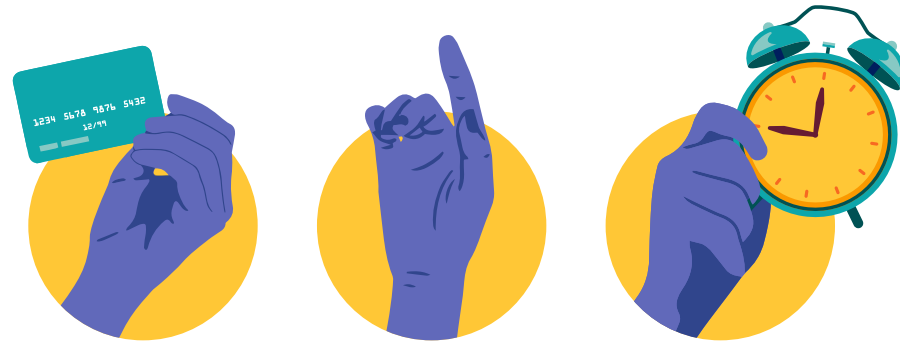
21 まとめ

22 調査の範囲と方法

エグゼクティブサマリー

業務部門の 将来像

業務部門は、人事や予算、プロジェクト導入、
成果、戦略まで多岐にわたり注意を払う必要があり、
新製品や新しいサービス提供の成功も失敗も、すべて
業務部門の判断にかかっています。これこそが、
レジリエンスと適応力が鍵となる理由です。



よく言われる「Operations keeps the lights on (業務部門はビジネスの生命線)」という言葉は、コロナ禍において新たな意味を持つようになりました。企業が、ハイブリッドワーク/リモートワーク、完全なデジタル顧客体験への転換、幅広いスキルや創造性、イノベーションを活用する必要性といった新たな現実への適応を余儀なくされたからです。

今後3～5年の間に、絶え間ない変化と混乱の中で舵取りをすることが、新しい業務管理となるでしょう。この2年間の経験により、業務部門に対しては、リスクを低減し、アジリティを高め、データセキュリティや環境・社会・ガバナンス (ESG) などのさまざまな問題に対処するために、業務のスマート化と高速化を実現すべきだという圧力が強まっています。

「業務の未来」レポートでは、業務部門の仕事を変革しようとする努力について解説します。また、業務リーダーが混乱に満ちた変革をしっかりと舵取りするためのロードマップも掲載しています。当社が10か国におよぶ750人の業務リーダーを対象に行った調査では、前途多難な道程を進むために、よりすばやく適応し、未来に待ち受けるあらゆる困難に対処するのに必要なスキル、人材、戦略、ツールが明らかになりました。

重要なポイント

業務リーダーは、混乱が一層進む将来に備えようとしています。さまざまなスキルや業務モデル、職場文化を開発し、より強固なレジリエンスを構築しようと努めているのです。

以下で、調査結果をご紹介します。

01 5つの混乱が業務に 変革をもたらす

今後3～5年の間に、自動化、持続可能性、ダイバーシティ（多様性）、新たな規制、サイバーセキュリティなどが、業務に多大な影響を与えることが予想されます。業務リーダーは、絶え間ない変化と混乱に満ちた新しい現実を乗り切るために、効率性を高め、ワークフローを簡素化する必要があります。

02 新しいリスクモデル と業務モデルが極めて 重要になる

ジャストインタイム方式の業務は廃止され、レジリエンスとリスク管理が重視されるようになりました。企業は、混乱が生じる状況を予測し、それに備え、管理する必要があります。つまり、事業経営の方針が大きく変わるということです。

03 業務スペシャリスト の需要が増える

デジタルトランスフォーメーション（DX）とは、現在多くのゼネラリストが行っている仕事を自動化することです。業務部門における特定の複雑な作業を行うスペシャリストの需要が高まります。さらに、データサイエンス、ESGレポート、リスク管理、サイバーセキュリティなど、ビジネスの成功において重要性が増している分野でも、率先してDXを実行していく必要があります。

04 最高の顧客体験は、 ハイブリッドになる

業務が完全な自動化に移行すると予測する回答もありましたが、人間的な触れ合いを残すことが企業としての差別化に役立つと考えられます。デジタルと人によるワークフロー全体で継続性とコンテキストを保ち、人間とロボットによるハイブリッドのサービスをパーソナライズして提供します。

05 業務リーダーは、 再教育などのスキル アップを図り、テクノ ロジーへの理解を深 める必要がある

業務リーダーには、事業戦略、コラボレーション、リーダーシップの専門知識に加え、デジタルコンピューターのスキルがさらに求められるようになることが予想されます。業務リーダーは、あまり複雑でないプロセスを簡単に自動化するソリューション（インテリジェントオートメーションやプロセスオートメーション、クラウドサービスなど）の導入に注力していくことになるでしょう。意思決定の透明性をさらに高め、デジタルに精通した競合他社を凌ぐには、リアルタイムのデータとインテリジェンスが不可欠になります。

パートI

業務の変革を進める 5つの混乱

今後3～5年の間に、ほとんどの業務リーダーにとって、混乱と絶え間ない変化への対応が日常業務となります。それにより、企業での働き方や運営方針、雇用のあり方は変化していくでしょう。

パートIでは、こうした**5**つの大きな混乱の詳細と、それによって起きる業務の再構築について解説します。





今後3～5年間で、業務部門に大きな、あるいは変革といえる影響を与えようと思う事項は、次のうちどれですか。

日常的な管理業務やIT業務の自動化

71%

AIと自動化でワークフローを最適化

71%

「金融分野では、ビジネスモデルが変わるか、それとも破綻するかというくらいに強烈な圧力がかかっていると感じています」

業務部門ディレクター

ユビキタスオートメーション

AIを活用した意思決定やワークフローのオートメーションを導入してプロセスを簡素化し、ワークフローを変革する企業や業界が増える中、企業構造やワークフロー、人材も大きく変化することが予想されます。今後3～5年の間に、より多くの企業が、アジリティや適応力を高めるために、業務の非効率性や障害の除去にオートメーションを活用することになるでしょう。

企業は、デジタルネイティブなライバル会社に遅れないようにする努力が必要になります。このようなライバル会社は、オートメーション、戦略的ワークフロー、応用AIを使用して従来の業務モデルに挑み、旧態依然とした競合他社を追い越そうとしているからです。また、ワークフローを最適化し、価値を引き出し、デジタルトランスフォーメーションを加速させるといった社内のニーズも、変化の原動力となります。

自動化に注力すべき主な分野は、ITサービス、日常的な管理業務、プロジェクト管理、サプライチェーンロジスティクス、カスタマーサービス、製品の設計・開発などです。組織が変化することにより、関連する業務チームが自動化され、スタッフが配置転換されることがあります。この場合、スタッフには再教育などのスキルアップが必要になります。適応力やスキルを身につける支援をする際には、適切なテクノロジーや指導が鍵となります。

しかし、自動化の成功は、業務部門が適切なリソースを確保できるかどうかにかかっており、保証されているわけではありません。多くの業務リーダーは、テクノロジーへの追加投資によって業務の効率と効果が劇的に変化することを期待していますが、当社が調査対象とした業務リーダーの半数は、効率化するうえで必要なレベルの技術投資が業務部門に対して行われていないと感じています。

将来を見据えた投資のための財源は、コロナ禍による収益の圧迫により、さらに制約を受けています。金融サービスのある業務リーダーは、「コロナ禍における収益への悪影響が続いているため、将来のインフラ構築のための資金源を探し出すのに時間がかかっています」と述べています。

持続可能性と気候変動への 緊急の取り組み

今後3～5年の間に、投資家、株主、従業員、顧客、行政機関、および一般市民は、**環境・社会・コーポレートガバナンス (ESG) の報告を重視するようになり、より多くの企業に対して、こうした分野における取り組みの強化を促すようになるでしょう。**

業務部門のディレクターは、どのようなすれば新しいESG基準を既存のワークフローやプロセスに統合し、目的志向の企業作りができるかについて理解する必要があります。より多くの顧客や従業員が持続可能な選択肢を求める中で、ESGへの対応が遅れば、組織は苦境に立たされるでしょう。

同時に、気候変動や異常気象は今後も業務に大きな混乱をもたらすため、堅牢性と予測性の高いリスクモデルや戦略が必要とされるようになります。

「目的志向で行動できるようになることこそが、私の職務だと考えています。どうすれば、人々の関心を、株主を儲けさせることなく、世界をより良くする方法に向けさせることができるのかということを常に考えています」

金融サービス企業、業務部門ディレクター



今後**3～5**年間で、業務部門に大きな、あるいは変革といえる影響を与えると思う事項は、次のうちどれですか。



持続可能性と
企業責任



コーポレートガバナンスの
強化の必要性

組織全体における真の 多様性の実現

48%

の回答者が、業務部門が多様性、公平性、包摂性の向上を推進することは非常に困難である、または極めて困難であると回答しています。

61%

の回答者が、将来の業務モデルに関して、多様性、包摂性、アクセシビリティが最優先事項である、または優先度が高い事項であると回答しています。

多様性、公平性、包摂性 (DEI) の向上は、業務全体の必須条件となり、採用、オンボーディング、研修、企業文化、さらには組織構造まで変えていくことが必要となります。**多様な人材を集め、維持するには、従業員の研修やオンボーディングが、従業員のさまざまなニーズに柔軟に対応している必要があります。**マイノリティ出身の従業員には、彼らの成功を後押しするために、社内のメンターやマイノリティグループにつながるような、カスタマイズされた研修やオンボーディングを行う必要もあるかもしれません。

かつては企業文化に合った人材を採用すること (カルチャーフィット) が主流でしたが、今後は企業文化を豊かにしてくれるような人材を採用すること (カルチャーアッド) が増えると予想されます。マイノリティ出身者は多くの場合、差別や偏見を克服する必要性に迫られた経験があるために、クリティカルシンキング、適応力、問題解決能力を身につけています。こうしたスキルは、今後、業務で必要とされる重要なスキルです。

さらに、多様性の強化によって、議論や戦略に生かせる知識が増えることになり、組織のアジリティと適応力を高めることができます。また、多様性があるということは、より多様な考え方、多様な観点、多様なアプローチを活用して問題解決に取り組めるようになるということでもあります。

変わり続ける規制

データプライバシー規則から環境政策の転換まで、業務リーダーは、**次々と現れる規制が多くの業界に大きな混乱をもたらすと予想しています**。特に、リテール保険や金融サービスのように規制遵守が厳しく求められる業界では、その傾向が顕著です。

環境規制の強化や拡大によって、企業は事業やサプライチェーンを精査し、より環境に配慮したソリューションへの転換が必要になります。こうした変化は、すでに二酸化炭素排出量を削減している企業にとってはプラスになり、それ以外の企業に対しては、リスク管理戦略として新たな環境規制を積極的に予測することを促すものです。

企業は、データプライバシーアーキテクチャを再構築するか、デジタルトランスフォーメーションの実施を遅らせて、より大きな説明責任と意思決定のトレーサビリティを実現する、コンプライアンス機能と監査機能に注力する必要に迫られるでしょう。より多くの企業が、迅速に方向転換できる、適応力の高いテクノロジーソリューション（ローコード、インテリジェント/プロセスオートメーションなど）を求めるようになることが予想されます。

52%

の回答者が、変化する規制要件に対応することは、業務部門にとって非常に困難である、または極めて困難であると回答しています。



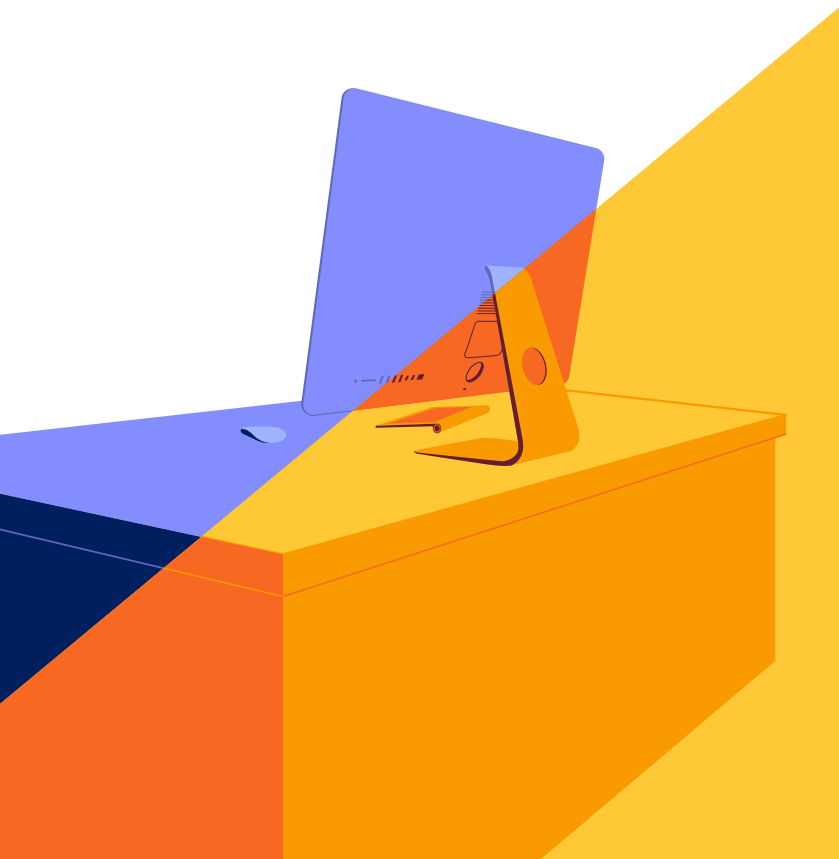
サイバーセキュリティおよび不正行為に関する懸念の広がり

59%

の回答者が、サイバー犯罪や不正行為への対応は、業務部門にとって非常に困難である、または極めて困難であると回答しています。

コロナ禍において顧客体験の完全デジタル化とリモートワークへの転換を進める間に、ランサムウェア攻撃が増加し、業務に大きな混乱と回復コストが生じました。同時に、クラウドテクノロジーやIoT(モノのインターネット)の導入、ワークフローの自動化、CX(顧客体験)のデジタル化などを進める企業も増えています。こうしたITの進歩により、デジタル上の脅威が拡大し、**多くの企業では、業務上の情報が漏洩したり、顧客や従業員、専有情報などの機密情報が流出したりする危険性が生じています。**

すべての業務部門において、積極的なサイバーセキュリティプログラムを今後3~5年間の優先事項とする必要があります。企業は、散在するサイロ化したワークフローを、一元化した安全な最新型のプラットフォームで統合し、脆弱性を改善することで、効果的にサイバー上の目標を達成できるようになります。AIと予測分析は、日常的な意思決定を支援するだけでなく、攻撃や脅威が発生しそうな場所を予測し、トラフィック、顧客、従業員、サプライヤーの行動に異常を検出することを目的として、業務への利用が一層増加していくでしょう。インテリジェントオートメーションは、サイバーセキュリティ/不正行為に関する、より労働集約的で反復的なワークフロー(例:トランザクションのモニタリング、脅威の検出)にも使用されるようになります。これにより、業務チームの時間が解放され、真に価値を創出できる業務に集中できるようになります。



パートII

混乱時の業務モデルの登場

この2年間で、混乱が生じた場合にすばやく適応し、将来の成功を担保するには、業務モデルとレジリエンスフレームワークの更新や再構築が必要であることがわかりました。これから先、混乱時の業務モデルはどのように変わっていくのでしょうか。混乱時の業務モデルにはさまざまな特徴がありますが、基本的には、より大きなレジリエンスを構築すること、大きな変化や混乱が生じたときにすぐに適応できないほど限定的でないこと、自動化の必要性と人間味を維持して差別化された顧客体験とのバランスを取ることが重要です。



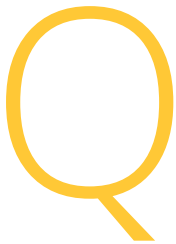
混乱時の業務モデルを導入している企業の特徴：

レジリエンス、堅牢性、アジリティ、分散性（サイロ化はしない）、コラボレーション、テクノロジーへの適応力、持続可能性、多様性が高く、リスク管理に注力し、スタッフ重視による差別化を図り、データ分析、自動化、データの透明性を活用しています。

ジャストインタイム方式の業務から適応戦略へ

将来の業務モデルは、リアルタイムのデータと予測分析によって強化されていきます。これにより、顧客のニーズをより正確に予測し、企業がより迅速に方向転換し、リソースの過不足を防ぎながら混乱に対処できます。そのためには、エンタープライズデータ管理システムを使用してデータの透明性を高め、部門間のコミュニケーションとコラボレーションを促進し、より健全な意思決定を行うことが重要です。

これからは、テクノロジーが鍵となります。成功する企業は、既存のテクノロジースタックを連携させることで人材、プロセス、テクノロジーをより適切に連動させ、体験と成果を最適化することに注力するようになるでしょう。新しいテクノロジーの選択は、統合しやすさだけでなく、変化するビジネス目標、コンプライアンス要件、業務モデルを管理する機能に基づいて行われると予想されます。



今後**3～5**年間で、業務部門に大きな、あるいは変革といえる影響を与えらると思う事項は、次のうちどれですか。

会社に対するリスクと混乱を適切に管理する必要性

最新テクノロジーへの対応

良質なデータへのアクセス

社内および社外の連携強化の必要性

レジリエンスフレームワーク/モデルの見直しと更新の必要性

73%

73%

69%

68%

67%

レジリエンスの重要性

将来の業績を向上させる企業とは、混乱に積極的に備える企業です。企業には、スマート化され、バランスの取れた、レジリエンスの高い方法で戦略的に業務を再構築することが期待されています。

当社は、企業が次のような形で適応していくと予測しています。

- 予防的なサイバーセキュリティプロセスを構築し、規制の変更を予測し、より広範なリスク管理戦略を実施するという取り組みは、より強固な保険の枠組みと連動することになるでしょう。
- 企業は、サプライチェーンの集中リスクを軽減するために、複数の冗長性を備えたより強力なサプライヤーエコシステムの構築に注力することになります。
- 企業がスキル不足の解消に取り組む中で、人材戦略の重要性がさらに高まることとなります。リモートチームや分散チームの増加、SaaS (Software as a Service) 企業へのアウトソーシング、グローバル採用戦略、対象となる人材の増強などが行われることが予想されます。
- 超効率経営からの脱却で、運転資金ニーズが大きく変化することになります。



貴社の業務部門にとって、次の各項目はどの程度困難ですか。

55%

経済的・地政学的な不確実性に対処すること

非常に困難または極めて困難

53%

デジタルに精通したライバル企業に負けないアジリティを確保すること

非常に困難または極めて困難

49%

将来性と目的適合性の高い回復モデルを構築すること

非常に困難または極めて困難

将来のCXは ハイブリッド型

多くのコンサルタントや技術者が、**すべての業務が自動化された「ゼロオペレーション」**の未来を予測しています。しかし、3～5年後も、企業はカスタマーサービスや販売ワークフローの一環として、人間同士のコミュニケーションを重視しているでしょう。予算と規制への対応も自動化のペースに影響を与えます。

企業は、顧客体験の一環としてテクノロジーを統合する部分と、スタッフによるサポートを機能させる部分を決めるという課題に直面することになります。企業はデジタル化と自動化を進める中でこのプロセスを繰り返し、教育、アップセル、リテンション、問題解決などの機会を失っている部分を発見すると考えられます。

たとえば、ロボアドバイザーはファイナンシャルアドバイザーの終焉をもたらすと予想されていましたが、そうはならず、業界ではファイナンシャルアドバイザーがアルゴリズムを補完するハイブリッドモデルへと移行しています。

適切なテクノロジーを採用することで、人間とロボットによるワークフロー全体にコンテキストと継続性が確保され、インテリジェントなバーチャルアシスタントが顧客体験の案内役となり、企業は適切なタイミングで適切な行動を取ることができるようになります。



業務の一部を自動化できない理由は何ですか。

コストが高すぎて自動化できない。

35%

直に接するカスタマーサービスを心がけている。

29%

専門のスタッフやチームが必要である。

26%

規制があるため難しい。

26%

複雑すぎて自動化できない。

24%

パートIII

業務スペシャリストの時代

混乱時の業務モデルが先駆けとなって、業務スペシャリストが登場しました。業務スペシャリストとは、複雑すぎて自動化できない、あるいは人手を必要とする、より価値の高いフロントエンドまたはバックエンドの作業を実行する、業務のプロフェッショナルのことです。また、今後3～5年の間に、コンプライアンス、ESG、分析、データサイエンス、サイバーなど、重要性が高まると予想される分野では、ソートリーダーシップと意思決定を推進する専門分野のエキスパートに対する需要が一層増していくことになります。自社でスペシャリストを育成できなければ、雇用するか、アウトソーシングすることになります。



今後3～5年の間に、業務部門のスタッフはどのように変化すると思いますか。



自動化またはデジタル化できない業務に対応するスペシャリストの採用を増やす必要がある。



ゼネラリストや手作業を行う人員を削減する。



人材の保持と確保に苦慮することになる。



オフショア化、アウトソース化を進める。



無駄な作業の削減

多くの分野において、フロントオフィスやバックオフィスの反復作業や手作業が大幅に自動化またはデジタル化されると見込まれています。特に企業の事業部門の単純作業では、こうした動きが進むでしょう。

たとえば、財務追跡や資金管理は、Robotic Process Automation (RPA) やSaaS、あるいはその両方によってデジタル化され、こうした業務に従事するスタッフは、スキルアップするか、財務モデリングやリスク管理など、より複雑な業務に重点を移すことが必要になります。

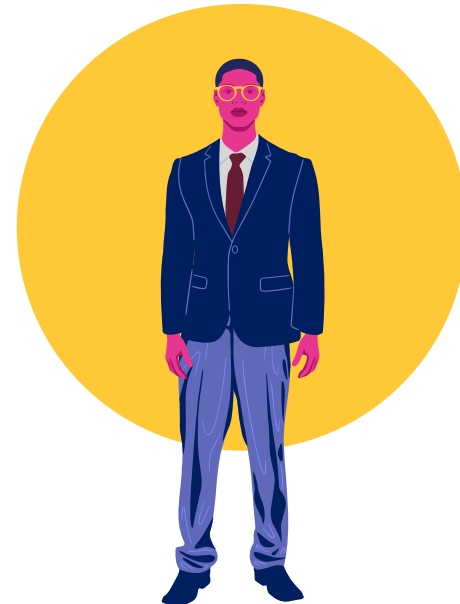
人間による専門知識はもう不要 ですか? そんなことはありません。

「社内での人材調達に
切り替えた時期もありました。
コールセンターでは2,000名以上の
スタッフが働いています。将来的には、
専門化に伴いアウトソーシングする予定です」

公共機関、業務部門ディレクター

高級志向の消費者や、企業向け貸付、保険など、商品が複雑化する中で、**複雑さのために自動化できない業務を実行し、重要な顧客体験を実際に提供できるスペシャリストの必要性は依然として高いままです。**

企業は、スタッフを強化することで差別化を図ることができます。その実現のためには、継続的な学習・能力開発や、カスタマーサービスの人間的側面に対する理解を深め、継続的にエンゲージメント、満足度、ロイヤルティを高めていくことが必要です。



パートIV

業務を進化させる 洞察力のあるリーダー

こうした劇的な変化の中、今後3～5年の間に、業務リーダーが前進し、成功するには、どのようなスキルが必要なのでしょうか。以下では、混乱に備え、業務部門の人材とテクノロジースタックを最適化する方法について解説します。



今後3～5年の間に、あなたにとってさらに重要になる能力はどれですか。



デジタルスキルや
コンピュータースキル



適応力



変更管理



コラボレーション



クリティカル
シンキング



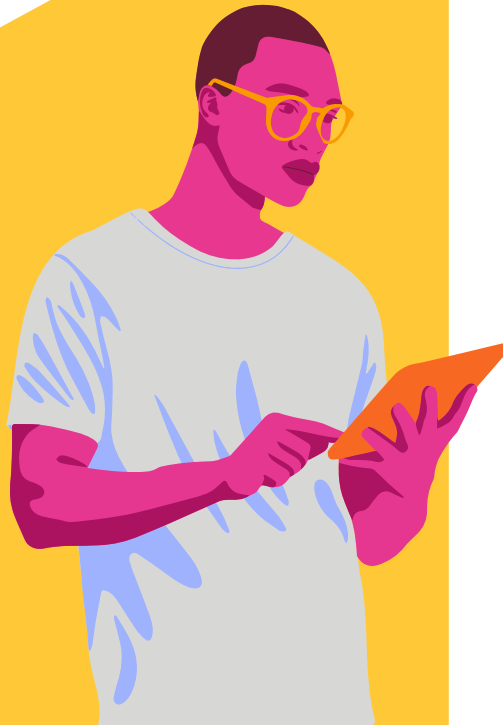
持続可能性と企業責任

必要なスキルを身につける

業務リーダーは今後、**デジタルスキルとコンピュータースキル、変更管理、コラボレーション、持続可能性と企業責任、適応力、クリティカルシンキング**を優先させるでしょう。業務部門には技術者、つまり、少なくともローコードソリューション、AI、予測分析を使いこなし、IT部門とより密接に連携できるデジタルに精通した人材が採用されると予測されます。

リソースを確保する

現在の業務リーダーにとって最も重要なスキルであるデータ管理と分析能力が、今後3～5年の間に一切不要になることはないでしょう。しかし、**リアルタイムのデータと予測分析がその作業の多くを担い**、自動化によってデータの手入力を削減できます。洞察力のある業務リーダーは、重要な分野における専門人材の育成にリソースを集中させ、特に人的およびデジタル的な手段によるCXの強化を重視したいと考えています。



最適なテクノロジーを選択して未来をつかむ

今後、業務リーダーは、クラウドやSaaSの活用をさらに進め、より少ない労力でより多くの業務に対応し、業務上のニーズに応じてカスタマイズ可能なソリューションを簡素化していくこととなります。

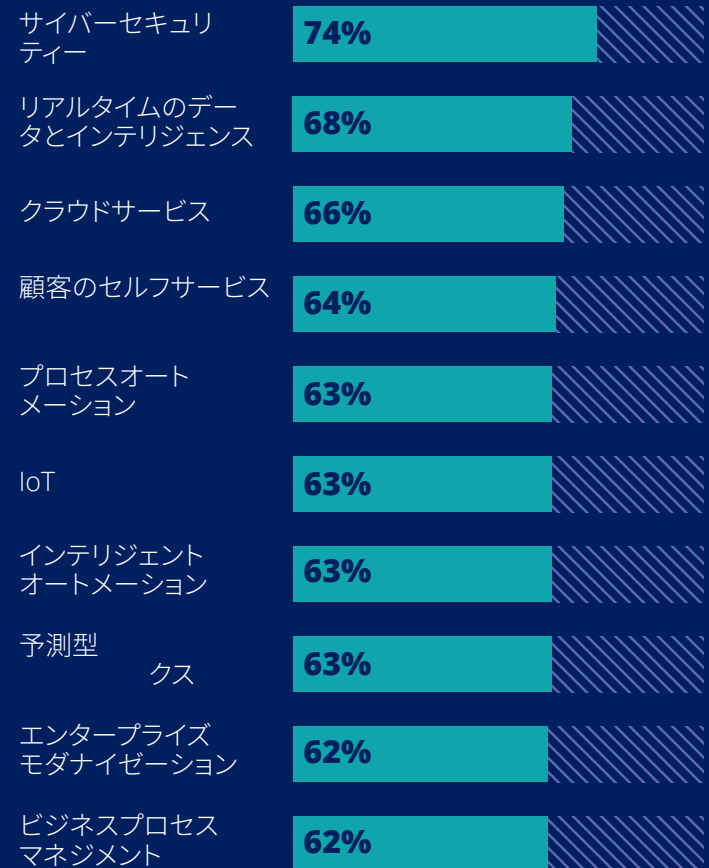
混乱の生じる未来において、最善策は、リアルタイムのデータと分析によって業績予測と評価の精度を高め、企業全体の業務を可視化し、よりアジャイルなプロセスと透明性の高い意思決定をすることです。また、ビジネスの複雑性を効率的に管理し、ワークフローのレジリエンスを高めてインテリジェント化・自動化することで、手間をかけるのではなくスマートに業務を進めることに注力することになるでしょう。

「来週の月曜日、来院するはずだった1,000人の患者さんのうち、100人は来院しない傾向が強いということが、データからわかる可能性があります」

ヘルスケア企業、COO



現在の自分の職務/会社について考えたとき、今後、最優先または高い優先順位で導入すべきテクノロジーはどれですか。



まとめ

今後3～5年の間に、混乱が頻発するようになることで、業務リーダーの前途は多難だと予想されます。こうした変化は、経営構造、スタッフ、リスクモデルに大きな変化をもたらすでしょう。

**将来の複雑さを解消するために、
業務リーダーが取るべき対策は、以下のとおりです。**

5つの主な混乱に 備える

自動化、サイバーセキュリティ、持続可能性、多様性、規制の変更などが組織にもたらす変化を乗り切るための計画作りをすぐに始めましょう。

業務モデルを 変革する

企業は、自社にとって最適なリスク管理と超効率経営のバランスを考えながら、これからの課題に対応していく必要があります。

人材の保持やスキル アップを図り、スペシャリストを増やす

既存の優秀なスタッフの定着およびゼネラリストのスキルアップを図り、スペシャリストを増員することで、差し迫ったスキル不足に備えましょう。

適切なスキルに 重点を置く

採用や能力開発の優先順位を決める際には、将来に混乱が生じた場合に必要不可欠な、デジタルスキルとコンピュータースキル、ビジネス戦略、クリティカルシンキング、適応力、問題解決能力に重点を置きましょう。

意識的にハイブリッドな顧客体験を実現する

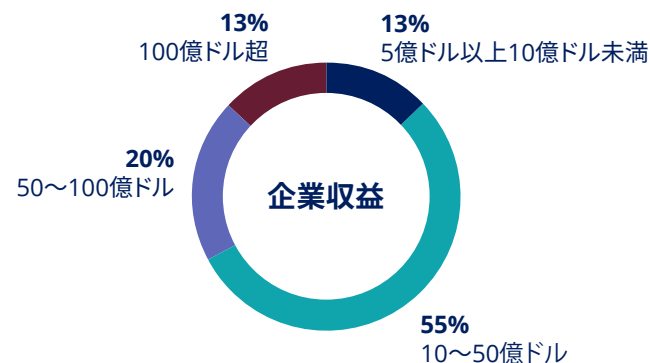
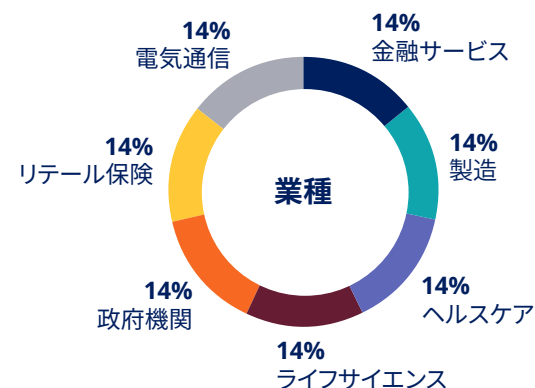
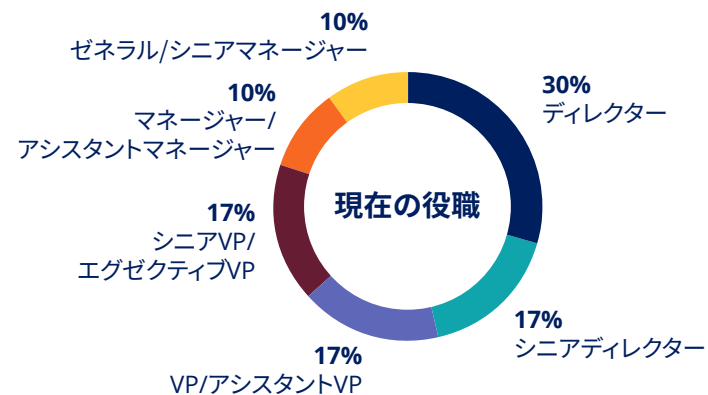
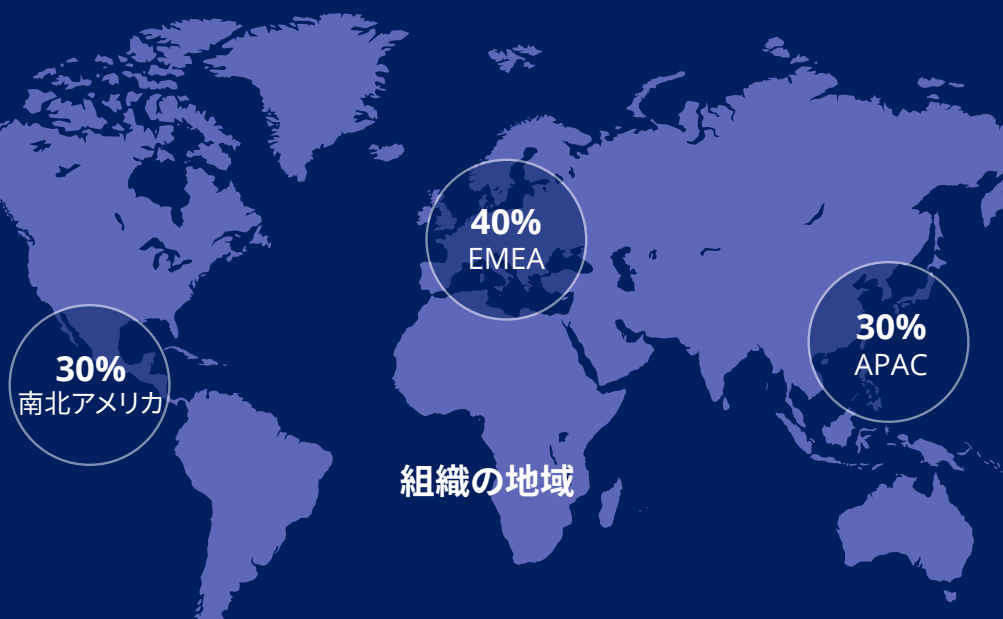
顧客満足度を高め、ビジネス目標を達成できるよう、シームレスに融合したカスタマージャーニーを積極的かつ戦略的に設計しましょう。

**未来は混乱に満ちているかもしれませんが、
企業は適切なロードマップとテクノロジーを
用意することで、自信を持って乗り切ることが
できるようになります。**

調査の範囲と方法

企業のビジネスやリスク管理の方法を変えつつある混乱に対応して、業務部門に起きている変化を把握することを目的として、金融サービス、ライフサイエンス、ヘルスケア、リテール保険、製造、電気通信、公共機関など、主な業界のITシニアバイスプレジデント、バイスプレジデント、シニアディレクター、ディレクター、シニアマネージャー、マネージャー750人を対象に調査を実施しました。

回答者への質問は20件、多肢選択式で、業務部門が今後3～5年の間に迎える変化について詳しく尋ねました。また、ヘルスケア、公共機関、金融サービス業界の業務部門エグゼクティブには面接形式の詳細な調査も実施しました。





Pegasystemsについて

Pegaは、ビジネスの複雑性を解消する、AIを活用した意思決定とワークフローの自動化を実現するローコードプラットフォームです。顧客生涯価値の最大化から、効率を高めるためのサービスの合理化まで、Pegaは世界の主要ブランドが問題をすばやく解決し、未来に向けた変革を成し遂げるお手伝いをしています。Pegaのお客様は、意思決定や仕事の進め方を簡素化することで、本当に重要なことに集中できるようになります。1983年以来、Pegaは、急激な変化の中で勝ち残るための拡張性のあるアーキテクチャとローコードプラットフォームを構築してきました。Pegaのソリューションは多くの人々の時間を節約し、お客様の従業員と顧客が重要なことに専念できるようお手伝いします。

詳細については、当社ウェブサイト pega.com/ja をご覧ください。

© 2022 Pegasystems, Inc. All rights reserved. すべての商標はそれぞれの所有者に帰属します。